

東海大学松前記念館(歴史と未来の博物館)の基本的運営方針

記念館の使命(ミッション)

★松前記念館は、建学の理念を守り伝える記念館としての機能・役割を果たし、社会教育機関として学園の歴史を未来に守り伝えます。

★松前記念館は、学内外の教育・研究活動と連携し、学生・教職員をサポートするとともに、大学博物館としての機能・役割を果たし、学術研究の発展に貢献します。

★松前記念館は、新たな博物館のあり方を構想するために、ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の実践などの様々な実験的な取り組みを展開し、文化施設として地域に貢献します。

1. 基本的な役割(松前記念館としての機能と役割)

「人道に根差した深い教養をもつ有能な人物を養成すると同時に高度の専門学術を研究教授することにより人類社会の福祉に貢献すること」という新制東海大学の「目的及び使命」に基づき、松前記念館規程が定める「創立者松前重義博士の思想及び偉業を顕彰」するとともに建学の精神を伝承し、「理想とする教育の推進に資することにより、広く社会に貢献することを目的とする。※旧松前記念館の運営と活用を含む

2. 歴史と未来の博物館(愛称)としての役割(大学博物館としての機能と役割)

「学問分野の際を越え、ともに学び、その成果をデジタル資産として残していく」(2022年館長提言)

- ① 大学コレクションの保存と活用の支援(文理融合による教育研究)
- ② 社会教育機関・文化施設としての展示・教育普及活動(特別展・常設展の開催)
- ③ 博物館 DX によるコレクションの利活用と情報発信(MLA 連携・デジタル化・オープン化)
- ④ ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の実践(学芸員養成教育等)

3. 基本的運営方針

2017 年に制定された学園全体の「学園マスター・プラン」及び高等教育部門「中期運営方針・事業計画」の中期目標(第Ⅰ期/2017-2021、第Ⅱ期/2022-2026、第Ⅲ期/2027-2031)に基づき、MLA 連携を基軸とした中・長期的な事業計画に基づき、適切な運営を図ることにより、「人々が地球市民として心をつなぎ、人と社会と自然が共生できる新しい文明社会の実現をめざす(松前達郎談話)」という使命を達成する。

1. 収集保管:創立者及び建学の源流(内村鑑三・デンマーク・同志等)に関する諸資料を中心に収集する。

※古代エジプト・古代アンデス遺物などの大学コレクションについては、活用及び保存に関する支援を行う。

2. 調査研究:「松前重義研究」を中心に、建学の理念や学園の歴史に関する調査研究を行う。

3. 公開普及:常設展の更新、特別展の開催、各種教育普及事業の開催、図録、報告書等の刊行などを行う。